東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所主催フィールド言語学ワークショップ

第 26 回文法研究ワークショップ
「音韻論・形態論とレキシコンとの関係」
開催のお知らせ・参加者募集

このワークショップでは、音韻論・形態論はどのような現象を取り扱うべきなのか、そしてレキシコンにはどのようなものが語彙項目として蓄積されているのかを考えます。

一般に、音韻理論の構築は音交替の現象を分析することによって行われますが、音交替とされている現象の中には、実はレキシコンで処理されるべき現象が含まれている可能性があり、データを吟味することが重要だ、ということが指摘されています*。形態論についても同様のことが言えます。

以上を背景に、このワークショップでは音韻論・形態論とレキシコンとの関係を考えていきます。いくつかの言語の現象を取り上げつつ、どこまでが音韻論・形態論の問題で、どこからがレキシコンの問題なのか、自由に議論します。

*川原繁人・竹村亜紀子 (2015)「連濁は音韻理論の問題か」西原哲雄・田中真一（編）『現代の形態論と音声学・音韻論の視点と論点』212–235. 東京：開拓社.

1. 日時： 2024 年 11 月 23 日（土）13:00−17:00
2. 場所： 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所（AA 研）マルチメディア会議室（304）＋Zoom 会議室
   ※Zoom 会議室の URL は、参加者に開催日前日までに連絡します。

3. プログラム：

13:00−13:10　植田尚樹（AA 研所員）
趣旨説明

13:10−13:55　植田尚樹（AA 研所員）
「モンゴル語の母音調和—語幹内の調和と接尾辞の調和は同じ現象か」

13:55−14:40　ハンスミン（早稲田大学大学院）
「韓国語「데우다 [tɛudɑ]（:温める）」の釜山方言における基底形の認識と音韻形態論的考察—「데피다 [tɛpʰidɑ]」「데푸다 [tɛpʰudɑ]」「데파다 [tɛpʰɑdɑ]」などの異形態について」

14:40−15:00　休憩

15:00−15:45　梅野真実（大阪大学大学院）
「英語にみられる音韻プロセス：理論はどこまで扱うべきか？」

15:45−16:30　古本真（AA 研ジュニア・フェロー）
「スワヒリ語マクンドゥチ方言の動詞形態論の記述から浮かび上がったレキシコンに関する問題」

16:30−17:00　全体討論
コメンテーター：白田理人（広島大学）、山岡翔（筑波大学）

4. 参加資格： 上記のテーマに関心のある研究者・学生
※大学院生以上を原則とします。それ以外の方についてはメールでご相談ください。

5. 定員： 対面 20 名程度（オンライン参加に関しては上限なし）

6. 参加申込方法：
下記 URL にアクセスして、専用フォームからお申し込みください。折り返し自動返信メールが届きますので、ご確認ください。
なお、右記 QR コードからでも同じページにアクセスできます。
https://forms.gle/4kGW7TkuNEuHrFH3A

7. 申込締切： 11 月 20 日（水）正午（ただし定員に達し次第締め切ります）

8. 問い合わせ先：
東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所　植田尚樹
メール：ueta_naoki[at]aa.tufs.ac.jp（[at]を@に変えて送信してください）

9. その他：
・ワークショップは日本語でおこないます。
・参加は無料です。
・ご不明な点がございましたら、上記「8. 問い合わせ先」までご連絡ください。

※　文法研究ワークショップは、諸言語の文法現象の分析、文法の記述、通言語的比較・対照をする上での諸問題に焦点を当てて企画されるものです。学生・研究者の交流や、情報共有を行なうことも目的としています。過去のワークショップにつきましては、以下をご覧ください。
http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/training/fieldling-ws/grammar-wr-ws

主催：　東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所基幹研究（言語学）「アジア・アフリカの言語動態の記述と記録：アジア・アフリカに生きる人々の言語・文化への深い理解を目指して（DDDLing）」